

知多半島ケーブルネットワークコミュニティ誌 [ココナッツクラブ]

COCONUTS CLUB

February
2021 2

みんな野球が大好きだ！



みんな野球が 大好きだ!



グラウンドに大きな声が響きわたる。

力いっぱい投げ、打ち、ボールを追い、練習や試合が終われば泥まみれ。

成長途上の子供たちが躍動する少年野球は、誰もが全力だ。

本格的な野球シーズンを前に、常滑市内で活動するチームの横顔を紹介しよう。

常滑の少年野球の胎動

春が近づき、野球が始動する。二月から三月にかけての季節を「球春」という。少年野球の世界にもそろそろ球春を迎える頃だ。少年野球は一年を通じて活動しているが、六年生の卒業に伴い新体制のチームが動き出すのは今の時期で、このタイミングで入団してくる子供も多い。開幕や春の選抜を控えたプロ野球や高校野球のように、年度が替わればさまざまな大会も開催されるので、それに向けて各チームが準備を始めつつある。

愛知県は「野球王国」と呼ばれるほど野球が盛んで、その一翼を担う知多半島も少年野球チームが多い地域である。現在、本誌エリアには八チームがあるが、今回はその中から「愛知県軟式野球連盟知多中部学童部」の常滑支部に所属する常滑市の四チームに焦点を当てる。

まずは少年野球の歴史を少し遡っておこう。

高度経済成長期に入った昭和30年代、庶民の生活が安定し、青少年の活動が活発になったことで、全国各地でさまざまな競技の少年団が結成されるようになった。少年野球が盛んになったのはそんな時代である。

折しも東京オリンピックを控え、国を挙げてスポーツ振興に力を入れていた時代。アマチュアスポーツのトップ団体である

日本体育協会 現・公益財団法人日本スポーツ協会は、取り組みの一つとして全国の少年団を統括する「日本スポーツ少年団」を昭和37年(1962)に組織する。これにより運営体制が整い、お墨付きを得た少年団が増加。子供がスポーツに親しむ機会が大きく広がった。このうち野球少年団については、全日本軟式野球連盟が昭和45年(1970)に大会等を体系化したことで、チームが急増するきっかけとなった。

常滑市における子供のスポーツも、こうした全国的な流れの中で整備、拡大されていった。常滑市では、昭和42年(1967)から様々なスポーツ教室が開催されるようになり、それを母体に剣道や卓球などの少年団が結成されたのが始まり。昭和45年には統括団体として「常滑市スポーツ少年団」が設立され、以後、体操、柔道、水泳、空手、ソフトボール、サッカーと、市内にさまざまなスポーツ少年団が誕生してゆく。

野球では、昭和48年(1973)に「常滑野球少年団」が設立されたのが皮切りだが、これは三年ほどで活動を終了している。現在に繋がるチームでは、昭和53年(1978)に結成された常滑ファイターズが最初だ。今年度のファイターズAチーム(六年生のチーム)の監督を務めている山西孝二さんは、その栄えある第一期生という。ファイターズは現在、常滑東小・西浦北小・西浦南小の各グラウンドを練習

拠点にしているが、山西さんによると当時は常滑駅の南側にあった中郷グラウンドがホームだったとか。

これに続いたのは、昭和58年(1983)結成の常滑ボーイズ。『常滑市スポーツ少年団三十年史』によると、結成当初は七十人という大所帯だった。いわゆる団塊ジュニアの就学時期と重なり、児童数が極めて多かった頃である。野球人気も非常に高く、小学校区の枠を超え、市内各地から二チームに入団者が殺到した。

そこから少し間を置いて、平成2年(1990)には市内三番目のチーム、鬼崎ラッキーズが誕生した。鬼崎地区在住の初代監督が、近所の子供たちだけで遊びの野球をやっていたのを見て「どうせなら仲間を集めて広いグラウンドでやろうよ」と声を掛けたのが始まりという。最初は企業のグラウンドを借り、のちに常滑ボーイズや支援者と協力して新浜町に「新浜グラウンド」を整備した。

四番目の青海ビッグウェーブスが創設されたのは平成15年(2003)と比較的最近のこと。その頃は少子化の進展とともに野球人口の減少が懸念され始めていた時期で、大野小と三和小の子供たちが進学する青海中学校の野球部も、部員減少で廃部になってしまおうという事件があった。これに危機感を抱いた地元の人たちが、底辺拡大のために立ち上げたのがビッグウェーブスである。

ライバルに勝とう！上を目指そう！

どのチームも年ごとに入団者数のばらつきがあり、それによってチーム編成も変動するので、どこが強豪ということは一概に言い切れない。しかし今年度の場合、ファイターズとボーイズが「二強」の様相で、知多半島全体を見ても最上位クラスに位置していた。

両軍の六年生のAチーム同士は、夏から冬にかけて主要な大会で四度戦っている。勝ち上がり戦の「知多中部地区大会」と「チャンピオントーナメント大会」の決勝戦は、ボーイズが制して優勝したのに対し、総当たり方式の常滑支部夏季大会と秋季大会は、ファイターズが優勝を飾っている。成績は二勝二敗の五分。四試合とも手に汗握る僅差の大接戦で、どちらのチームも「絶対に勝つんだ！」という闘志と気迫がみなぎっていたのが印象的だった。

この二チームは、長い歴史の中で優勝経験も豊富である。どちらも「常滑」を冠するチームとして、表にはあまり出さずとも互いに意識しあい、鎗を削ってきたのだろう。いいライバル関係であることが結果からもわかる。

一方、ラッキーズとビッグウェーブスは、今年度は六年生が少ないこともあって試合では苦戦することも多かったようだ。しかし、子供たちの気持ちは先の二チームに決して劣っていない。



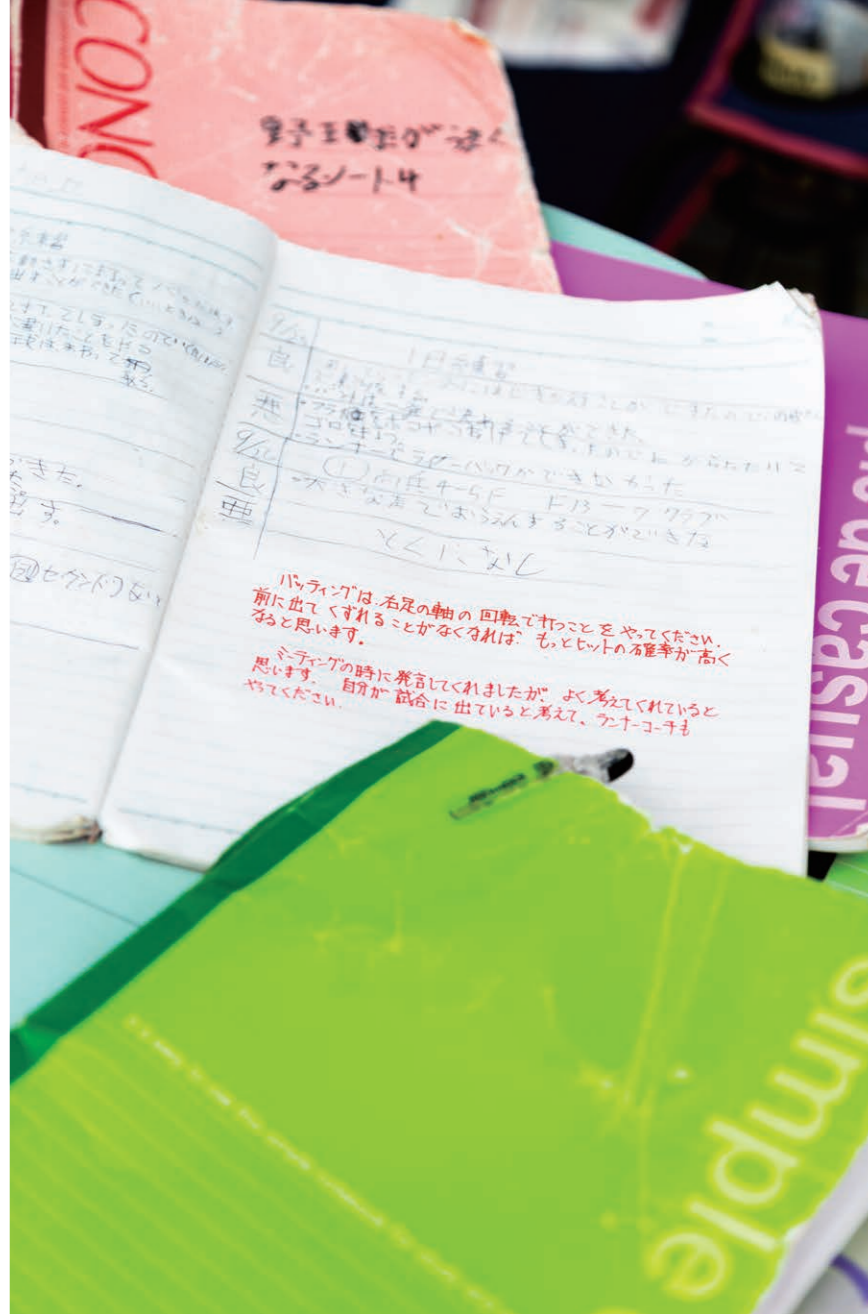
昭和も令和も、野球に熱中する子供たちは元気溘刺だ。

子供たちが野球の技術だけでなく精神面で成長するためにも、指導者の存在は重要だ。監督はそれぞれのやり方で、子供たちのやる気を引き出し、チーム全体のレベルアップに腐心している。

ファイターズAチーム監督の山西さんは、いつも子供たちにノートを提出させている。帰宅後にその日の練習や試合を振り返り、それを自分の言葉で書くことで反省点を理解し、自分自身で課題を導

野球を通じてみんなで成長する

何度も見かけた。目的を同じくするひとつのチームの中で、子供たちは団結心と向上心を間違いなく身に付けている。



喜び、悔しがり、考えて、試合のたびごとに成長する。

き出してもらうことが狙いだ。ノートに目を通した山西さんは、すべての子供にアドバイスや所感を書き入れて戻す。「単なる練習日記に終わらず、良かったことや悪かったことをしっかりと考える文章を書いている子は、上達も早いんです。難しいかもしれないが全員がそう書けるまでになってくれるのが理想。いかにして子供たちの自主性を伸ばしてあげられるかが、私たち指導者の役目だと思います」と山西さんは話す。

ボーイズAチーム監督の藤井幸司さんも、子供たちの自主性を強く意識している。こちらでは、節目ごとに子供たちだけでミーティングする時間を設け、チーム目標と個人目標を立てているという。また、試合の度に「今日のテーマ」を子供た

ちと共有して試合に臨むのが慣例になっており、子供たちが自ら考え、行動することを目指している。チームが強くなるためにはどうするか、それぞれが上手くなるためにはどうするか、考える力を子供たちにつけてほしいというのが藤井さんら指導者の願いだ。

ラッキーズやビッグウェーブスの指導者たちも、思いは一人と同じだろう。そして保護者は、そんな環境の中で仲間と一緒に野球に熱中し、技術的にも精神的にも成長していく我が子の姿を目の当たりにすることになる。もしも子供が「野球をやりたい!」と言ったなら、まずは気軽に各チームを覗いてみてほしい。そこには可能性の広がるグラウンドと、野球が大好きな仲間たちが待っている。



ラッキーズは、秋ごろから子供たちの意識が「野球を楽しむ」から「どうせやるなら勝つぞ」というように変わり、チームの雰囲気や練習に取り組み姿勢が見違えて良くなってきたという。これは、監督の堀木隆則さんの指導のもと、試合経験を積むとともに勝つ喜びが分かってくることが大きい。技術面では、「なんのためにこの練習をするのか」をしっかりと理解させたうえで、「一つひとつのプレーを確実にやることを徹底して教え込み、メンタル面では「自分自身に負けない」という気持ちを持たせることを大切に行っている。「厳しい面もあるけれど、良かったらちゃんと褒めてくれる監督のことを、みんな大好きみたいですね」とは、練習を見守っていたあるお母さんの言葉だ。

野球を始めて日が浅い子供が多いというビッグウェーブスは、兎にも角にも野球の基礎を身に付けさせようと、基本を大事にした練習に取り組んできた。「まずは経験の浅い子供たちに、野球って楽しいんだ」ということを知ってほしいので、厳しさは控えめに丁寧に教えていきます」と、監督の尾之内正さんは話す。

技術や体力の差こそあれど、四チームに共通していることがひとつだけある。それはチームワークのよさだ。野球は一人ではできない競技ではない。そのことは子供たちも十分に理解しており、お互いに声をかけ、喜び合ったり励まし合ったりする姿を、取材に赴いた試合や練習で

一緒に野球をやろう!

野球を始めたいと考えている子供たちと保護者の皆さんの疑問に答えます。

Q 通っている小学校によって入団できるチームは決まっているの?

A 比較的住んでいる地域に近いチームに入団する子供が多いですが、基本的にどのチームも居住地を問わず入団が可能です。

Q 何年生から入団できるの?

A どのチームも一年生から入団できます(チームによっては未就学児でも可)。活動は三年生以下と四年生以上に分かれて行うチームが多く、高学年はそのチームの団員数によって四~六年生の合同チームになる場合と、学年ごとにチームを作る場合があります。

Q 女の子でも大丈夫?

A もちろん大丈夫です。あるチームの六年生女子の団員に聞いたところ「男の子が多いけれど、野球好きの仲間なので気になりません!」とのこと。

Q 保護者の負担は?

A 遠征試合での配車や大会時のサポートなど協力をお願いされることもありますが、どなたも仕事や家庭の都合もありますし、どのチームも過度の負担がかからないよう保護者同士が助け合って臨機応変に対応しています。

L

鬼崎ラッキーズ



モットー 「明るく 楽しく 元気よく」

練習場所 新浜グラウンド、鬼崎南小学校

問い合わせ 090-6615-3821 (相武さん)

BW

青海ビッグウェーブス



モットー 「勝利をつかめ」

練習場所 三和小学校

問い合わせ 090-9890-5451 (本さん)

み

常滑ファイターズ



モットー 「One Play, One Game」

練習場所 常滑東小学校、西浦北小学校、西浦南小学校

問い合わせ 090-9222-1498 (磯崎さん)

B

常滑ボーイズ



モットー 「仲間を信じて 己に勝つ」

練習場所 新浜グラウンド、鬼崎北小学校

問い合わせ 090-8958-6085 (井上さん)